

入試年度	2025 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2025 年 2 月 20 日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 日本社会・産業システム研究領域
入試方式	一般入学試験/ 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

【出題の意図】

I. 論述問題

- (1) 研究科の日本社会・産業システム研究領域においては、日本社会や日本企業の雇用制度、そして働き方について認識していることが必要であり、その理解度を確認することを意図している。
- (2) 日本における GMS（総合スーパー）の歴史的発展は、日本的流通システムの理解において重要な要素である。その盛衰のプロセスを理解しているか判断するために出題した。また日本の GMS の発展は、その源流であるアメリカのそれとは異なる点があり、その点について理解しているかは、国際比較を重要なテーマとしている本研究科での学びにおいて重要な観点であるため、その理解が及んでいるかを確認することを意図して出題した。

II. 解説問題

- (1) 経営戦略の中で多角化戦略は企業の研究において必須の基礎知識であるため、その理解を確認する意図で出題した。
- (2) 「36 協定」は日本企業の労働時間管理において基礎知識であり、その理解を確認する意図で出題した。
- (3) 「知的熟練」は日本企業の高い現場競争力の理解において必須の概念であるため、その理解を確認する意図で出題した。
- (4) とりわけ小売流通の学習において、チェーン・オペレーションの仕組みを理解していることは必須の基礎知識であるため、その理解を確認する意図で出題した。
- (5) 流通革命論は、大規模小売業者と小売業者の相剋や日本における流通のダイナミズムを理解する上で必須である。その知識を確認する目的で出題した。
- (6) マス・マーチャンダイジングは、今日 SPA と呼ばれる製造小売企業のビジネス・モデルの根幹をなすものとして重要な概念である。その理解を評価する意図で出題した。

【解答例（採点時の観点）】

I. 論述問題

- (1) この問題は、ワークライフバランスの概念を正しく理解しているか、そしてこの観点から日本の働き方の問題点を説明しているか、そしてその働き方と少子化など日本の社会的な問題とつなげて論じているかを重視して評点した。
- (2) 意図のところでも言及しているが、この問題に対する解答として求められることは、日本の流通システムにおける総合スーパー（GMS）の歴史的な軌跡を適切に解答できるかどうかである。スーパーの根本原理であるチェーン・オペレーションの概念を理解しているか、食品スーパーと総合スーパーの違いが説明できるか、日本とアメリカの GMS の相違について適切に論述できるか、これらの点を勘案して評定した。

II. 解説問題

- (1) 経営戦略の1つである「多角化戦略」について、「多角化」の概念、シナジー効果など多角化のメリット、PPMなど多角化戦略の仕組みについて適切に解答するか否かを評定した。
- (2) 日本企業の労働時間制度において「36協定」の意味、そしてそれが日本の長時間労働に与えた影響について適切に解答するか否かを評定した。
- (3) 伝統的な熟練とは異なる意味で「知的熟練」について理解しているか、そしてその知的熟練の形成方式と経済性についてまで述べているか否かを評定した。
- (4) チェーン・ストアの経営手法である、チェーン・オペレーションの仕組みについて、多店舗展開を基礎にして本部による一括仕入れと、店舗における効率的な販売活動、すなわち仕入れと販売の分離といったメカニズムを適切に解答するか否かを評価した。
- (5) 流通革命論の理論的展開について、戦後の日本における流通近代化への道筋に関連して、中小の小売企業が多数をなす流通構造の容態、それに対するアメリカをモデルとした大規模小売業者の発展可能性、結果として生じるであろう中間業者である卸売業者を排除する傾向など、林周二氏が展開した流通革命論の概略を適切に議論できるか否かをもとに評定した。
- (6) マス・マーチャンダイジングは、小売業者によるプライベート・ブランドの企画や開発、そして製造委託に関する原理であり、今日アパレル業界において活躍するファスト・ファッションなどのビジネス・モデルの根幹をなす概念である。この仕組みは、アイテム数を絞りながら、そのアイテムについて大量生産を行って、規模の経済を発揮することを通じて低価格を実現するというものであり、こうしたメカニズムを適切に説明できるか否かを判定の基準とした。

合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。